

妙法蓮華經。授學無學人記品。第九

爾の時に阿難・羅睺羅、而も是の念を作さく、我等毎に自ら思惟すらく、設し授記を得ば亦快からずや。即ち座より起つて佛前に到り頭面に足を禮し、俱に佛に白して言さく、世尊、我等に於て亦分あるべし。唯如來のみましまして我等が歸する所なり。又我等はこれ一切世間の天・人・阿修羅に知識せらる。阿難は常に侍者となつて法藏を護持す。羅睺羅は是れ佛の子なり。若し佛阿耨多羅三藐三菩提の記を授けられれば、我が願既に満じて衆の望亦足りなん。

爾の時に學・無學の聲聞の弟子二千人、皆座より起つて偏に右の肩を袒にし、佛前に到り一心に合掌し世尊を瞻仰して、阿難・羅睺羅の所願の如くにして一面に住立せり。

爾の時に佛、阿難に告げたまわく、汝來世に於て當に作佛することを得べし。山海慧自在通王如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊と號けん。當に六十二億の諸佛を供養し法藏を護持して、然して後に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。二十千萬億恒河沙の諸の菩薩等を教化して、阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめん。國を常立勝旛と名け、其の土清淨にして瑠璃を地とせん。劫を妙音徧滿と名けん。其の佛の壽命無量千萬億阿僧祇劫ならん。若し人千萬億無量阿僧祇劫の中に於て算數校計すとも知ること得ること能わじ。正法世に住すること壽命に倍し、像法世に住すること復正法に倍せん。阿難、是の山海慧自在通王佛は、十方の無量千萬億恒河沙等の諸佛如來に、共に其の功德を讚歎し稱せらるること爲ん。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて

言わく、

我今僧中にして説く 阿難持法者

當に諸佛を供養し 然して後に正覺を成ずべし

號を山海慧 自在通王佛といわん

其の國土清淨にして 常立勝旛と名けん

諸の菩薩を教化すること 其の數恒沙の如くならん

佛大威徳ましまして 名聞十方に満ち

壽命量あることなけん 衆生を愍むを以ての故に

正法壽命に倍し 像法復是れに倍せん

恒河沙等の如き 無數の諸の衆生

此の佛法の中に於て 佛道の因縁を種えん

爾の時に會中の新發意の菩薩八千人、咸く是の念を作さく、

我等尙お 諸の大菩薩の是の如き記を得ることを聞かず。何の

因縁あつて 諸の聲聞是の如き決を得る。

爾の時に世尊、 諸の菩薩の心の所念を知しめして、之に告

げて曰く、 諸の善男子、我阿難等と空王佛の所に於て、

同時に阿耨多羅三藐三菩提の心を發しき。阿難は常に多聞を樂

い、我は常に勤め精進す。是の故に我は已に阿耨多羅三藐三

菩提を成ずることを得たり。而るに阿難は我が法を護持し、亦

將來の諸佛の法藏を護つて、 諸の菩薩衆を教化し成就せん。

其の本願是の如し、故に斯の記を獲。

阿難 面り佛前に於て、 自ら授記及び國土の莊嚴を聞いて

所願具足し、 心大に歡喜して未曾有なることを得たり。即時に

過去の無量千萬億の諸佛の法藏を憶念するに、 通達無礙なること

今聞く所の如し。亦本願を識んぬ。

爾の時に阿難、偈を説いて言さく、
世尊は甚だ希有なり 我をして過去の

無量の諸佛の法を念せしめたもう 今日聞く所の如し

我今復疑なくして 佛道に安住しぬ

方便をもつて侍者となつて 諸佛の法を護持せん

爾の時に佛、羅睺羅に告げたまわく、汝來世に於て當に作佛
することを得べし。踏七寶華如來・應供・正徧知・明行足・
善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊と號けん。
當に十世界微塵等數の諸佛如來を供養すべし。常に諸佛の爲に而
も長子と作ること猶お今の如くならん。是の踏七寶華佛の國土の
莊嚴・壽命の劫數・所化の弟子・正法・像法、亦山海慧自在
通王如來の如くにして異なることなけん。亦此の佛の爲に而も
長子と作らん。是れを過ぎて已後、當に阿耨多羅三藐三菩提を
得べし。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて
言わく、

我太子たりし時 羅睺長子となり

我今佛道を成ずれば 法を受けて法子と爲れり

未來世の中に於て 無量億の佛を見たてまつるに

皆其の長子となつて 一心に佛道を求めん

羅睺羅の密行は 唯我のみ能く之を知れり

現に我が長子となつて 以て諸の衆生に示す

無量億千萬の 功德數うべからず

佛法に安住して 以て無上道を求む

爾の時に世尊、學・無學の二千人を見たもうに、其の意柔輒
に寂然清淨にして一心に佛を觀たてまつる。佛阿難に告げ
たまわく、汝是の學・無學の二千人を見るや不や。唯然、已に
見る。阿難、是の諸人等は當に五十世界微塵數の諸佛如來を供養
し、恭敬尊重し法藏を護持して、末後に同時に十方の國に於て

各成佛おのれのじょうぶつすることを得うべし。皆みな同じく一號いっごうにして名なづけて寶相ほうそう如來・應供おうぐ・正徧知しょうへんち・明行足みやうぎようそく・善逝ぜんせい・世間解せけんげ・無上士むじようじ・調御丈夫じようごじやうぶ・天人師てんにんし・佛ぶつ・世尊せそんといわん。壽命じゆみやう一劫いっこくならん。國土こくどの莊嚴しょうげん・聲聞しょうもん・菩薩ぼさつ・正法しょうぼう・像法ぞうぼう、皆みな悉ことごとく同等どうとうならん。爾その時に世尊せそん、重ねて此この義ぎを宣のべんと欲ほつして、偈げを説といて言のたまわく、

是この二千にせんの聲聞しょうもん 今いま我が前まえに於おいて住じゆうせる

悉ことごとく皆記みなきを與あたえ授さすく 未み來らいに當まさに成佛じようぶつすべし

供養くようする所ところの諸佛しよぶつは 上かみに説とく塵數じんじゆの如ごとくならん

其その法藏ほうぞうを護持ごぢして 後のちに當まさに正覺しょうがくを成じようずべし

各おのれの十方じつぱうの國くにに於おいて 悉ことごとく同じおな一名號みやうごうならん

俱時くじに道場どうじやうに坐ざして 以もつて無上慧むじようえを證しょうし

皆名みななづけて寶相ほうそうとせん 國土こくど及びおよ弟子でし

正法しょうぼうと像法ぞうぼうと 悉ことごとく等ひとしくして異ことなることあることなけん

咸ことごとく諸もろもろの神通じんづうを以もつて 十方じつぱうの衆生しゆじやうを度どし

名聞みやうもん普あまねく周徧しゆうへんして 漸ようやく涅槃ねはんに入いらん

爾その時に學がく・無學むがくの二千人にせん、佛ほとけの授記じゆきを聞ききたてまつりて

歡喜かんぎ踊躍ゆうやくして、偈げを説といて言もつさく、

世尊せそんは慧えの燈明とうみやうなり 我われ授記じゆきの音みこえを聞ききたてまつりて

心こころに歡喜かんぎ充満じゆうまんせること 甘露かんろをもつて灌そそがるるが如ごとし